

(持ち込み不可)

【設問】

(1) NSC68がまとめられた政治的背景と、その国際政治史的意義について説明せよ。

(2) ドイツ連邦共和国(西ドイツ)発足の経緯について説明せよ。

【解答の指針】

両設問とも、講義の内容を確認する基本的なものです。

(1) 専門的に勉強すればさまざまに掘り下げられる問いですが、ここでは授業で見た大まかな因果関係が捉えられていればよいです。中華人民共和国の成立やソ連の原爆保有公式宣言、などが米政府を刺激したこと、そしてその前提として1947年あたりに公然と反共政策に転じていたことなどに触れることが期待されます。国際関係への対応であるとともに、アメリカ国内向けの政策であった点にも触れる必要があります。さらにこの報告書の当初の取り扱われ方や事実上その内容が現実のものになったプロセスへの言及も必要です。

「意義」についてはアメリカが軍事大国化したことや核軍拡に一つの契機を与えたこと軸に叙述されていることが期待されます。

(2) まず敗戦国ドイツが、四力国分割占領の状態にあったことを説明した上で、各国の占領政策の方針とその具体的展開について触れることが必要です。その際、イデオロギー的な違いだけではなくむしろ安全保障上の関心の相違と結びつけて説明することが期待さ

れます。その関連においてもマーシャルプラン、経済地区合同について触れ、通貨改革（その政策的動機も含めて）断行の背景の説明がなされることが最低限必要です。加えてロンドン会議からコブレントツ会議における西側での暫定国家発足の準備過程の説明が必要です。（ベルリン封鎖のエピソードも。）

1989年のドイツ再統一について触れている答案も一定数ありましたが、問題の趣旨から外れているのももちろん必要ありません。またこのときのベルリン封鎖によってベルリンの壁が設置されたとの記述も目につきましたが誤りです。（この点については授業でも数度話しました。）

＊

両設問に共通することですが、歴史的に国際政治を叙述する際、「＊＊が成立した」「＊＊が生じた」と、出来事を羅列する答案が目立ちました。条約や戦争は自然に起こるものではないので、出来事がなぜ、どのようにして起きたのかという因果関係を説明することが国際政治の歴史にとっては非常に大切です。そのためには国際的な出来事について考えるとき、日頃から「主語」（あるいは「主題」）を明確にして思考を進める習慣をつけると良いかと思います。

＊

なお評点についてですが、よく書けている解答が少なくなかったため、少しの差でSではなくAになったものもありました。また講義内容から全く外れたことを記述した解答や圧倒的情報不足の解答はD（不可）となりました。